

七年熊本を回顧する

記者座談会

《中》

——十大ニュースについて、各論的に取材して感じたことを出してもらおうか。

A 水俣病患者死搬は一応ルー

E 彼らは三千万円にはこだわっていないんだ。被害者が加害者と直接交渉するというあたりまえのことに、なぜチツンは応じないかというんだ。これはわかる。

D 特別立法はありうるね。た

トに乗ったが、補償問題が年を越してしまっただね。一部は二十万円の仮払いで中央公害審議の調停へ移行したんだが。

B 非常に感情的な言い方だけど、県や国がけしからんという気がするね。救済法で行政救済したらあとはしらんというのは、まさに官僚的なきれいごとだ。

C 自主交渉を主張している人たちは、大変な危機感を持っている。中公審は四十四年の補償処理委と同じで、いわば被害者の泣き寝入りによって解決するやり方だという気持ちがい。

だ、国としては水俣病の補償問題に頭をつつ込むと、大変なことになる。水俣みたくに加害者のわかつている公害よりも、四日市や東京の光化学スモッグみたいなものが将来ふえるし、それを国が補償することはあるとしても、水俣の場合のような企業の「私害」には手を出すべきじゃない。